

## 5. 1966年 山合宿縦走

8月12日 狹沢より尾根経由で Summer Tent  
に行かんとしても、この雲行あやしく春、天狗の  
コルより岳沢へ下る。案の状、前穂の登山口あ  
たりで猛烈な雨となり、Tentに着いたときは  
全身ずぶぬれであった。出発(8:45) →  
興徳(11:00) → ジェサンダラム(11:40) →  
天狗のコル(12:30) → Summer Tent(5:00)

13日 Tentの掃除をしながらい定着での夜小  
を取る。杉本、田よりTent到着(5:30)

14日 起きると小雨だった。杉本所具何も持って  
こず、何んとか到達して出発するも少々頭は  
くさ。やがて雨止り、涼しい雲空の下を快調  
にとびく。殺し小屋では水代1人40円との  
事なので、Tentでもらった(美川美川ササ性で12)  
ピスケットもくわって持っていく。出発(6:50)  
→ 明神(7:20) → 徳沢(8:05) → 横尾(9  
:06~23) → 一の俣(10:05~20) → 殺し小屋  
(11:20) → 殺し小屋(2:30)

15日 合宿も又、雨降だ。早朝、暗みに  
じよじよお水をしっけいして朝飯を作る。  
檜の肩がりのあたりは復線になっており、五分  
下まで数珠つなぎ、頂上ではガスのちや何  
も見えず。双六〜三俣間は水いたる所に  
有り、黒部漂流で小キジをうつ、この小キ  
ジがやがて電気をあらし、工場を動かす、電  
車をけいせ、下界の人々の生活に潤をな

たのか。思うと感無量であった。出発(5:25)→尾の小屋(6:05)→猪頂上(6:20)→双六(10:00~20)→三俣(17:25)→藪の平(3:00)

16日 雨と強風の為め荒れ

17日 地図にて薬師の出合まで1時間と予想(たが)石と藪コの急な下りで予想外に時間がかかる。

薬師の登りで両まじりの強風吹ふぶかれ、積線谷の道を進めず、風当りの谷の所を進む。疲労激しく、向山より互方の所に雪が有りテンバと存。7:15までスゴまで行かず、ツェルトをはる

出発(5:25)→薬師出合(8:05)→左俣(9:15)→太郎小屋(10:45)→愛大遭難碑(12:50)薬師岳頂上(1:10)→テンバ(3:00)

18日 昨夜、食べた物がゆるが、たらしく下痢を起し(五色まで)羊糞とす。スゴで日本海が見えたときは大変うれしく、越中沢岳の登りで偽ピークばかりで頂上に存か存かつけ存いのにはあつた。

出発(6:30)→越中沢岳(9:25)→五色(

19日 五色ヶ原から、石と石と坂を下つてガク峠へ、ミダシシガ岳への登り、かなり急な登りである。これを登り切つて下を見ると、にも多くの残雪がある。鬼ヶ岳は登らず、右側から残雪の上をトラバースして、音龍岳とのコルへ出る、約200mの登りを登れば、もうそこは浄土山が見える、富山大立山研究所から、一の越まではゆるやかな下りである。一の越はミダシヶ原からの客が多く上高地呑みの混雑ぶりである。300mの権山までの登りも人が多し、頂上も人、人、人、人……

雄山の頂上に登るとすると、頂上の手わりに柵が  
 いてある。オヤマー、オヤマーとよく見ると、頂上にいくには全  
 50円有り、日本数ある山の中にもこんなお山がある  
 のかと、頂上には登らず大汝に向う。真砂集のチ  
 ールの大キリニと、別山との間で雷雨に会い、雨に  
 とこの上なし、スゴトにあたり「落雷のため即死」の遺棄金  
 牌を思い出す。剣沢のテンバに降りるときはスゴト  
 してした。発( ) → 一ノ越( ) → 石巻山  
 ( ) → テンバ( )

20日 前剣からの登りは往々奇なりズツケゆ  
 く、しかも長い。一般の登山者はヒンター云々の春から  
 登っている。こちらは特大のキスリングでゆゆうと登  
 っていく。春時はまったく気持ちがいい。早月との合  
 小路にサックを置いて頂上へ。白馬、鹿島が目の前  
 薬師岳が真にリッパな姿でそびえている。はるか  
 遠くに槍、穂高も見える。ハツル峰が印象的であ  
 った。交通費が安からう、早く帰る事が出来るら  
 う(体をこわしたため)、早月を下る。2600m地裏  
 にはもう冬山のための荷が(てあった。徐中ドラムカン  
 のフタにたまった雨上を飲んだりしながら、フラフラに  
 春で瑞馬島に着いた。出発(5=50) →  
 前剣(7:32) → 頂上(8:28) → 無人小屋  
 (12:10) → 馬場島(15:01) → 上市( ) →  
 魚津( ) → 江津( ) → 上田  
 (10:30)